班通信

No.16

ダリア

令和6年11月14日
さいたま市
岩槻班退職校長会
事務局：090-5826-3329（岡野）

日帰り研修旅行
明治維新の人々の気概を感じた「富岡製糸場」

10月15日猛暑の後の秋を感じる中、最近では最も多い20名が参加して行われました。最初に2020年6月にオープンした群馬県立世界遺産センター「セカイト」で絹産業遺産群の概要を映像や展示で確認し、製糸場に向かいました。大きな工場や倉庫だけでなく寄宿舎や診療所、女工館などが整然と配置された当時としては超近代的な建造物群に圧倒されました。また外国から導入した技術を独自に国内向きに改良するなど、国の近代化に情熱を注いだ往時の関係者の使命感や情熱、行動力に敬服しました。また深く関わった渋沢栄一、尾高惇忠、韮塚直次郎が埼玉県人であることも誇らしく感じました。

一方、世界遺産はじめ歴史的な財産を今後どう維持し伝えていくべきか、大きな課題を抱えていることも痛感しました。この後貸し切りの「かわら屋」でゆったりと昼食をとり、「こんにゃくパーク」へ移動、こんにゃくのバイキングを楽しみました。

セカイトの見学

今回はベテラン会員に加えて複数の若手会員にも積極的に参加いただきました。新たな交流を深めながら、有意義で楽しい一日を過ごすことができました。来年も大いに期待しています。

かわら屋で昼食

対外連携事業が活発に実施されています

「学校・地域の活動を支援するボランティア一覧」を各学校や地域の団体等に配付して以降、学校や地域との連携活動が順調に行われています。これまでに行われた活動は…。①生活科「岩槻城址公園で虫探し事前指導」（太田小）　②家庭科「ミシンの実習補助」（西原小）　③「工作と昆虫の話」（青少年育成岩槻地区会：予定）　④Sola るーむ運営補助（太田小、新和小）　⑤昆虫写真展示（柏崎小）。また、これまでの継続で、岩槻児童センター連携事業（夏休み:ホタル観察教室等7事業、冬休み：下記参照）さらに土曜チャレンジ事業の講師や各学校運営にも多くの会員が関わり活躍しています。

太田小　虫探し授業

柏崎小　写真展示

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

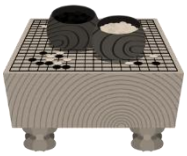
冬休みの児童センターとの連携事業（MKDOシリーズ）

1　写真展示「円網を張るクモ」　11/20～2/28
2　「上手になる書初め教室」12/26
3　実験ショー「おもしろ静電気」12/28
4　「昔遊びに挑戦しよう」1/6
5　「よく飛ぶ竹トンボを作ろう」1/7

素晴らしい！！　今年も中山会員が優勝

県退職校長会の囲碁大会が10月4日に行われ、B組で中山時次会員が昨年に引き続き見事優勝されました。

おめでとうございました。



LINE「岩槻班退職校長会」を本格運用へ

事務の効率化や経費削減を目的に会員の皆様にグループＬＩＮＥへの参加をお願いしてきましたが、30名の会員の同意を得て、いよいよ運用を開始します。

今後は事業の案内と参加・不参加等の連絡は、参加者へはＬＩＮＥで、その他の会員へは従来通り印刷物を回覧や配達でお届けします。なお、役員推薦や原稿募集等は全会員に回覧等でお知らせします。ＬＩＮＥ参加は今後も随時受け付けますので、ご希望の会員は担当の吉田幹事または岡野事務局長へお知らせください。

県のHPをのぞいてみよう！

右のQRコードをスマホで読み取り、「ウェブサイトを開く」をタップするとHPが表示され、その中にさいたま支部や各班のコーナーがあり、岩槻班にはこれまで行ってきた各事業の様子や過去の班通信も載っています。一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

季節だより
オオオナモミ

昔、秋になると「ひっつき虫」を投げて遊びましたか。あれはオナモミの実ですが、今や絶滅危惧種になってしまいました。代わって繁茂しているのは北米原産のオオオナモミです。本種は現在「要注意外来植物」「侵略的外来種ワースト100」に指定されていますが、河川敷や造成地など荒れ地を好んで生育します。また実が水に浮くので川岸に群生することもあります。秋にできる硬い実は、長さ25㎜、幅18㎜程度の楕円球の形で、3~6mmのとげがたくさんあり、その先端はかぎ爪状に曲がっており、動物の毛や衣服に絡みつくので「ひっつき虫」になります。この構造にヒントを得て発明されたのが『面ファスナー（マジックテープ）』です。とても硬い実をつけるのは、中にある脂肪豊富で栄養価の高い種を動物に食べられないように守るためです。そして衣服や毛に付着しやすいかぎ爪のついたとげを持つのは、芽生えて以来その場を移動できない植物が、自分の子孫の繁栄のために種を遠くへ運んでもらう戦略なのです。そのため草丈は人や動物の背丈ほどで、茎は枯れても倒れずひたすら誰かが通るのを待ち続けるのです。又実の中には大小2つの種があり、まず大きな種が誰よりも早く発芽し光を独占します。しかしその時干ばつや人による開発など全滅の危機になると、代わって小さな種子が発芽して危機を救うという「保険」が掛けられているのです。